

防災新聞



9月26日(木)、1年生を対象に煙道体験が行われました。火災が起こってしまった時、火より恐ろしいのが煙です。火災が起こると、煙による一酸化炭素中毒で多くの命が奪われます。そんな状況に出会わないのが望ましいですが、万が一に備えて、煙が充満した煙道体験を行いました。煙道の中は、想像以上の煙で少しも見えない状況でしたし、体験後咳き込んでしまう生徒が何人か見られました。今回は白い煙でしたが、火事では白い煙はやがて黒い煙に変わり、視界も更に悪くなります。今回の体験で少しでも煙の怖さを知ってもらえたのではと思います。

体験生徒の感想

煙で前が見えなくて、外からだと小さく短い距離に見えたテントの中がとても長く感じました。煙道の中は暗く、前に何があるかもわからない状態でした。しかし、「煙は上の方にたまりやすい」と聞いていたので低い姿勢で進んだり少しだけ視界が広がりました。また、ハンカチを口に当てながら煙を吸わないように呼吸をすることが難しかったです。実際の火事では煙は有害なのでハンカチをしつかり口と鼻に当て、煙を吸わないことがとても重要に思いました。

「消火器」の使い方は簡単で①黄色い栓を抜き②ホースを持ち③レバーを握るだけでレバーの間を指を挟んでしまわないように注意することで、誰でも安全に使いこなせると思います。消火器を使うことのできる火事は、自分より火が小さい時だけです。火を消す時はしっかりと狙いを定めて、段々近づいて行き消火することを心がけています。

実際に火事と出会った時は、大きな声で「火事だー」と周りに知らせることが大切です。パニックにならないための良い体験になったので、冷静に行動したいと感じました。

皆さんは家具や家電製品などの転倒防止対策に、正しい方法があることをご存じでしょうか？大きな揺れによって突っ張り棒が簡単に外れ、家具は容易く転倒します。今一度、家族揃って家の安全度を確認し、地震被害を最小限に留める準備をしましょう。

耐震対策

- ① 家具や家電製品などの耐震固定
- ② 食器などが落ちないように工夫
- ③ ガラスの飛散防止対策(フィルム)
- ④ 就寝場所に大型家具を置かない
- ⑤ 自宅の耐震性の確認と必要な補強
- ⑥ タンスや本棚の上に物を置かない

備え

- ① 懐中電灯(分かり易い場所に置く)
- ② 携帯電話用の電池式充電器
- ③ 携帯ラジオ
- ④ 7日分の食料品
- ⑤ 非常持ち出し品が入ったリュックサック
- ⑥ 1日1人3リットルの飲料水
- ⑦ 消火器



家族がバラバラになったときのために

- ① 非常時の連絡方法を決める
- ② 三つ「災害伝言ダイヤル(171)」を使う
- ③ 伝言やメモを残す場所を決める
- ④ 安全な集合場所を決める
- ⑤ 家族の携帯電話や親戚の電話番号を記す
- ⑥ 地域の避難場所を確認
- ⑦ 避難場所への安全な避難経路を確認
- ⑧ ガス栓と電気ブレーカーの場所を確認

非常用備蓄食

山田高校には、全校生徒分の非常用備蓄食が保管されています。防災委員で試食してみました。

「五目ご飯」

香りは良いが、米がばさついていると感じたり、味付けが薄いと感じる人が多いようでした。非常食としてはおいしかった。

「ドライカレー」

全体的に味付けが薄いと感じている人が多く、中にはカレーのスナックを食べているように感じられた人もいた。分量は満足できる量でした。おいしいと感じる人が少なかつた理由は、想像するイメージと味にギャップがあったからです。

「梅がゆ」

少し塩気が強く感じたものの今回試食した中で一番好評でした。一年二年の備蓄食として梅がゆが置かれている理由としては、水の量によって米の柔らかさを変えられ、子どもや年配の方にも配慮できる面と、ふりかけが別に添えられているため、個々の好きな味に変えられる面など応用が利くからだとわかりました。



「水」

1人最低でもペットボトル2〜3本の飲料水が必要に感じました。家族分を用意する必要があります。皆さんの家庭ではどうしていますか？

(文責: 防災委員)



